

令和4年度 学校自己評価書 (川南町立川南小学校)

4段階評定 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

※評価資料にある〇数は、「学校経営方針具体的実践事項①～⑫」である。

●本年度、重点取組事項

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析および改善策等	委員評定		委員の意見
			項目	総合		項目	総合	
<b>I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進</b>								
1	<b>家庭教育支援の充実</b> に努める。 ②家庭学習の定着率 100% ⑦ケース会議を適宜実施 ⑧保護者との協働による生活リズムの習慣化(全家庭実施)	○家庭学習の手引きを活用し、家庭との共通実践による習慣化を目指した指導 ○個別面談を年2回実施(5月:希望、7月:全員) ○児童や家庭の困り感に応じ、ケース会議を随時実施 ●町当局をはじめ外部機関との連携による児童、家庭の見守り、指導 ●PTAと連携し、望ましい生活習慣(メディアコントロール)の確立に向けた学校保健委員会の実施 ●家庭と学校(保健室を中心として)が連携して、生活リズムの習慣化に向けた実践活動の実施	3		○家庭学習の習慣化についての保護者の評価では72%が身についているという結果であった。今後は、さらにタブレットの活用も含めて、学年の実態や個人の学びに合った家庭学習に取り組む必要がある。 ○個別面談は予定どおり実施できた。 ○ケース会議については必要に応じて実施してきた。今後の指導方針や情報を共有し家庭や児童へのサポートを組織的に継続することができた。 ○メディアコントロールについては学校保健員で6年生を対象に講話を実施した。全校としては強調週間を活用して家庭での取組を促してきた。	3.3		○保護者6、7割以上が認めているところがすごいと思います。 ○家庭学習の習慣化は家庭の協力も必要。学校と各家庭の更なる連携が重要と考えます。 ○教室での学びと家庭での学習(復習・予習)がうまく機能しているの、落ち着いた授業風景につながっていると思う。
	<b>学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。</b> ⑪地域学校協働活動と連携した「かわみなみ学」の実施(各学年5回程度) ⑫あさつ指導の徹底(65%→80%) ⑬幼児小連絡会を年3回実施 ○生涯学習協議会の熟議による、地域社会に参画する態度を育む活動の方向性の確立(年3回) ○コミュニティ・スクールにおける活動内容の周知・認知度の向上(39%→60%)	○教育課程に位置づけている「かわみなみ学」の計画的実施 ※「かわみなみ学」:(地域を学ぶ、地域で学ぶ、地域住民と学ぶ)学習 ○地区公民館や見守り隊、読み聞かせ団体「あけぼの会」と連携した交通安全活動、交流活動等の実施 ○毎朝の玄関前でのあさつ指導の実施 ●幼児小連絡会を通して、架け橋プログラムの作成・共通理解・共通実践による連携の深化 ●活動内容等を紹介するコミュニティ・スクール通信の発行	3	4	○「かわみなみ学」については、コロナ禍の対応を図りながら計画どおり実施できた。また地区公民館や見守り隊、読み聞かせについても協働した活動が継続できている。 ○学校運営協議会は、年度初めの熟議をはじめ、ふれあい参観日等で協働的活動し児童や学校の様子について観察・評価を実施できた。 ○コミュニティ・スクール通信で具体的に活動を紹介したことで、認知度は54%まで向上した。 ○あさつに関する保護者の評価は66%であった。今後、更に要する指導を中心として見守り隊やPTAと連携を図っていく。 ○幼児小連絡会はほぼ計画通り実施できた。幼児期と小学校期のつなぎを意識し、視点を絞って指導方針を共有し実践することができた。	3.5	3.7	○コロナ禍での「かわみなみ学」の実施は素晴らしいことです。また「コミュニティ・スクール通信」も高く評価します。 ○「かわみなみ学」がコロナ禍で計画通りに進んだ事はこれからの地元愛へつながっていくと思います。あさつに関しては大人からの声掛けも必要だが、防犯も考えやすい問題です。 ○地域の方々のつながりが高く、子ども連を様々な視点から見守る意識が高くなっていることが素晴らしいと思う。
<b>II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進</b>								
1	<b>読書活動を推進する。</b> ③学校図書館の充実による本に親しむ児童の増加(「主体的読書」70%→85%) ④「あけぼの会」による読み聞かせを、毎月1回実施 ⑤町立図書館の機能を生かした学級文庫の充実による読書機会の確保(各学年学期1回)	○司書教諭や読書担当職員を核として、学校図書館とPTAとの連携を図りながら、多様な読書活動を実施(学習指導部) ●書籍図書及び図書購入予算による、児童の実態に応じた新刊の購入	3		○主体的な読書について児童の評価は、61%と前年度より下がってしまった。読みたいと感じさせる環境整備や時間の確保など今後対策が必要である。 ●あけぼの会による読み聞かせは、ほぼ計画通り実施できた。 ○町立図書館との連携については、学級文庫の入れ替えの頻度を上げたり教科書学習に関連する書籍を借りたりなど、今後工夫が必要である。	3.3		○ソーシャルメディア等、児童の関心が読書に向かない現状だが、本を楽しむ工夫が実施されていると思います。 ○読書を楽しむ習慣が少ななっているのが今の子ども達の特徴かもしれません。絵本からやり始めてもいいのかと思います。
	<b>確かな学力を育む教育を推進する。</b> 「学びの時間」を生かした個別指導の充実(毎週実施) ①協働的な学びを目指した授業改善(「自分の考えをよく発表」58%→75%) ②各種学力検査(全国平均+3～8%) ③家庭学習の習慣化(定着率100%)	●「学びの時間」における指導を全職員で実施 ●宮崎大学と連携して、読解力や表現力等の向上を目的とした授業改善の実施(研修部) ○「学習指導書の巻」を活用した望ましい学習態度の確立(学習指導部) ○各種学力検査等を生かした本校児童の学力課題の明確化及び授業改善等を通して課題解決	3		○6年生の学力検査の結果を見ると、5年時の学力検査が平均より10ポイント程度だったものが、6年時の検査では平均をやや上回ることできている。授業、個別指導、家庭学習などの効果が表れている。 ○「学びの時間」(補充指導、個別指導)は計画通り実施できている。考えを発表することについての児童の評価は57%と前年度とほぼ変わらない。更なる学力向上に向けて授業改善が必要である。	3.7		○学力検査結果が上昇することはすごい。 ○児童の能力に合わせた学習指導で結果が表れていると感じます。 ○物事に対する気持ちのたせ方、興味を引くような授業がされていたと思う。
3	<b>人権を尊重し、豊かな心を育む教育の推進</b> ④教育相談や日常の観察によるいじめ等の早期発見と早期対応 「子どもと先生との関わり」85%→95% 「困ったときに先生に相談しているか」67%→90% ⑤教職員の人権感覚を育むための研修の充実(年3回程度)	●高学年の総合的な学習の時間や、委員会活動を通して、SDGsの観点から、自他への思いやりを育む教育の育成 ●教育相談や先生がお推進委員会を通して、悩みやいじめ等の早期発見、組織的・継続的な指導・支援の実践 ○JRC委員会や朝のボランティア活動を核として、青少年十の目標である「気づき・考え・実行する」態度の育成 ○外部機関等と連携した「いのちの授業」(3年生)、「認知症サポーター養成講座」(4年生)、「がん教育」による命の授業(5年生)の実施	3		○学校が子どものことについて誠実に対応していることについて保護者評価は92%。問題の早期発見について教師評価は81%であったが、児童が困ったとき先生に相談しているかは69%であった。児童への悩み相談アンケートは毎月実施し教師間で実態把握や指導について協議しているが、さらに相談しやすい体制や雰囲気を作っていく必要がある。 ○人権に関する研修や授業についてはすべて実施できている。人権感覚を高め、他者を尊重し認める心を、授業だけでなく日常の活動においても意識して指導していく必要がある。	3.7		○保護者の9割以上が評価するのほすばらしいことです。 ○保護者評価が高い事は、学校対称の対応の心教育への取組も実施されており良いと思います。 ○たかさんの児童を見守っている中で、小さなことを全て把握することは困難と思わしますが、異変に早く気付くことで解決が即座になると思います。がんばってください！
	<b>特別支援教育を推進する。</b> ⑤特性のある児童の共通理解と共通実践 ⑥児童の人権感覚を磨き、指導力向上を高める研修の実施(年3回程度)	○えがお推進委員会の月1回実施、特別支援教育の観点からの共通理解及び共通実践の具体策確認 ○個別の指導計画、教育支援計画に基づく児童への支援について、職員間及び保護者における共通理解 ●困り感のある児童について常に情報を共有し、校内就学支援委員会やケース会議による早期対応	3	4	○児童の特性を共通理解する研修や困り感解消のための指導の在り方についての協議など、機会をとらえ実施してきている。 ○職員間でも児童の状況について情報交換や相談を、学年別や特支コーディネーターを中心に行っており、適時ケース会議や保護者との面談につながっている。	3.6	4.0	○児童の特性を共通理解することや児童の状況を情報交換する等、素晴らしい取組です。 ○児童がそれぞれの特性を理解して接していると感じます。 ○情報共有が大切です。先生方が取り組まれている事を今後も積み重ねてほしいと思います。
5	<b>郷土を愛し、地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。</b> ⑪「かわみなみ学」の実施(再掲) ●児童を主体とした地域社会への参画を企図した学習活動の創造	○SDGsの観点から、特に委員会活動と総合的な学習の時間において、よりよい地域社会づくりに参画する実践的態度の育成 ●地域社会に参画する機会として、5年生の米作りや生かした米粉トナツのアイデア提供、参観日や軽トラ市での販売体験の実施	3	4	○地域や外部団体との連携、「よのなか教室」の実施など充実した取組を行っているが、保護者評価は、76%に下がっている。必要なきまりや約束を守っているが80%に下がっている。指導しているかの教師評価は100%であるが、児童は守っているかが77%である。指導の成果をあげるために「5つの無言」を徹底して指導していく必要がある。 ○ICTを活用した授業については研修を重ねているが、思考を深めていくためのICTの効果的な活用については継続して研修を深めていく必要がある。 ○タブレットの平日や週末の持ち帰りを段階的に進めている。タブレット取扱いに関する指導や使いやすいアプリの購入などを次年度に向けて進めていく。 ○英語が好きという児童の評価は70%であった。掲示物等を活用し興味関心を高める手立ても必要である。	4.0		○ドーナツの販売体験は児童に多い経験になると思います。 ○SDGs現代社会でのテーマに積極的に取り組まれていると思います。 ○新しい取組を学校の枠を超えて行えたことは大きく評価できます。次につなげましょう。
	<b>キャリア教育を推進する。</b> ⑫地域住民や各種団体等と連携した交流活動の実施(各学年5回程度) ⑬教育現場による基本的な生活習慣の指導の徹底(「基本的な生活が身に付いているか」83%→95%) ⑭学校生活全般を通して規律を遵守する態度の育成(集団生活に必要なきまりや約束を守って)	○ふれあい参観日における、多彩な職業人から「職業観」や「生き方」を学ぶ「よのなか教室」の実施(11月) ●全職員による、重点実践事項「5つの無言」をしっかりと守る」の指導の徹底	3		○地域や外部団体との連携、「よのなか教室」の実施など充実した取組を行っているが、保護者評価は、76%に下がっている。必要なきまりや約束を守っているが80%に下がっている。指導しているかの教師評価は100%であるが、児童は守っているかが77%である。指導の成果をあげるために「5つの無言」を徹底して指導していく必要がある。	3.3		○よのなか教室もおもしろい取組だと思います。 ○学校側は真剣に取り組んでいても児童が守ってくれない事はとても残念です。個々を大切にする風潮が強い現代であり難しい課題です。 ○小学生からキャリア教育を受けることは、大変意義のあることだと思います。
7	<b>社会の変化に対応した多様な人材を育む教育を推進する。</b> ①デジタル教科書やタブレットを活用した授業の日常的実施(毎日活用) ②実践的なコミュニケーション力の育成を図る外国語教育の充実(「英語の学習が好き」79%→85%)	●電子黒板やタブレットの、授業での有効活用方法について研修を実施 ○ICTの効果的活用を意図した授業研究の実施 ●タブレットを持ち帰っての家庭学習実施に向けた段階的実践 ○ALTを活用し、実践的な表現活動を充実させた授業の実施 ○英検Jr(6年生)の実施	3		○ICTを活用した授業については研修を重ねているが、思考を深めていくためのICTの効果的な活用については継続して研修を深めていく必要がある。 ○タブレットの平日や週末の持ち帰りを段階的に進めている。タブレット取扱いに関する指導や使いやすいアプリの購入などを次年度に向けて進めていく。 ○英語が好きという児童の評価は70%であった。掲示物等を活用し興味関心を高める手立ても必要である。	3.3		○これら益々重要となる分野であり、このまま継続して取り組んでいただきたいです。 ○ICT教育の充実には、まだまだ時間がかかるとは思いますが、これからの時代にかかせない分野です。がんばってください！
	<b>III 教員を支える体制や環境の整備・充実</b>							
1	<b>教職員の資質向上の推進に努める。</b> ①宮崎大学と連携した研修の実施(令和3年度から3ヶ年計画)	○大学教授を招いての研修の実施 ○年2回の授業研修会及び一教師一授業の実施	3		○教授を招いての研修を2回、授業研修会や一教師一授業の実施を進めることができた。今後は、全職員で読解力向上に向けた授業改善に取り組んでいく必要がある。	3.3		○教授を招いての研修は素晴らしいと思います。 ○先生方の意向が素晴らしいと思います。大学との連携は、新しい今を取り入れられそうです今後続けてほしいです。
	<b>安心・安全な教育環境の整備・充実</b> に努める。 ②避難訓練の実施及び引き渡し訓練の実施(年3回) ○登下校の安全指導の充実(登校班長の実施を学期1回、見守り活動を毎日、見守り隊との連絡会を月1回) ○児童の安全意識の向上(「道具を安全に使用」99%→100%)	○緊急時の引き渡し訓練の実施(2年に1回 本年度は訓練実施) ○地区懇談会の実施(7月参観日時) 地区指導者、保護者、教員、6年生児童及び行政当局担当者が参加 ●PTAと連携した各地区の安全点検の実施(年1回) ○地区児童会の実施(学期1回) ○見守り隊による登下校時の支援(毎日) ○教職員による下校指導の実施(随時)	3	4	○方策・手立については、すべて計画通り実施できた。特に、地区懇談会における安全確認について6年生児童と保護者、行政担当者が協議できたことは意義があると考へている。 ○道具を安全に使用しているかの児童評価は96%であった。目標の100%ではないが安全意識は高まっていると言える。	3.7	4.0	○児童の安全については、地域、行政との連携は必須です。学校の安全意識は高いと思います。 ○緊急時を想定した児童の引き渡し訓練は、とても素晴らしいと思います。地震を想定して車でではなく徒歩での迎えも必要かもしれません。
<b>IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進</b>								
1	<b>学校体育の推進に努める。</b> ⑨体力テスト 各項目平均以上	○体力向上プランに基づく具体的実践 特に体育学習の充実 ○卒業学習時の立腰指導 ●外遊びの奨励(保体安全部重点指導事項)	2		○体力テスト結果は平均以上となったのは2項目だけである。屋体外的外遊びを多くの児童が実践しているが、運動に親しむ環境整備や仕掛けを考えていく必要がある。	2.7		○休日、外で遊んでいる児童を見かけず寂しいです。 ○伸びるを引き出すことで、眠っている能力が引き開花すると思います。「遊び」を多く取り入れたらいいですね。